

# 隠れた名演奏家を聴く **第1回**

## プログラム

今日は、優れた才能を持ちながら、一般的にあまり知られていない、隠れた名演奏家達をご紹介しますシリーズの第1回目をお送りします。

グレゴリー・ソコロフ(1950~ )はサンクトペテルブルク生まれのロシアのピアニストで、1966年のチャイコフスキー・コンクールに16歳で優勝、若手のホープとして期待されますが、確固たる評価は得られないまま、40代に入って円熟した演奏を聴かせるようになりました。メジャーレーベルでの録音が少ないため、やや隠れた存在になっていますが、近年では優れた技巧に加え、豊かな音楽性とスケールを持ち合わせた名ピアニストとして活躍しています。ヤコフ・クライツベルク(1959~2011)はサンクトペテルブルク生まれのロシアの指揮者で、兄は名指揮者セミヨン・ピシュコフ。イリヤ・ムーシンに学び1994年からベルリン・コーミッシェ・オーパーの音楽監督。1994年~2000年、イギリスのボーンマス交響楽団首席指揮者。ウィーン交響楽団の首席客演指揮者を経て、2009年からモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督に就任しました。その間ベルリン・フィル、パリ管、ロンドン響等世界の一流オーケストラを指揮、これからの活躍が大いに期待されていた矢先に急逝しました。クライツベルクはどんな作品とも真摯に向き合い、その作品の魅力を引き出す手腕に長けていました。心に残る名指揮者のひとりです。ジャン=ジャック・カントロフ(1945~ )はカンヌ生まれのフランスの名ヴァイオリニスト。カール・フレッシュ、パガニーニ国際音楽コンクールで優勝、19歳でカーネギーホールにデビューするなど、若くして才能を発揮します。その後室内楽の活動も活発になり、90年代には多くの名演を残しました。品の良さで優れた技巧に支えられた豊かで美しい音色で魅了し続けています。ピエール・デルヴォー(1917~1992)はフランスの名指揮者。1947年パリ・オペラ座の首席指揮者。1964年ケベック響音楽監督、1971年ロワール・フィルの音楽監督に就任。日本にもNHK交響楽団の客演指揮者として何度か訪れています。デルヴォーの指揮は軽妙さと華やかさをうまく振り分けるバランス感覚に優れていました。忘れられない指揮者のひとりです。

\*\*\*\*\*

フランツ・シューベルト (1797~1828):  
ピアノ・ソナタ第14番イ短調 D.784 ~ 第1楽章、第3楽章

フレデリック・ショパン (1810~1849):  
マズルカ嬰八短調 op.63-3  
グレゴリー・ソコロフ (ピアノ)  
(2015.8.18 プロヴァンス大劇場でのLive)

セルгей・ラフマニノフ (1873~1943):  
交響曲第2番ホ短調 op.27 ~ 第3楽章、第4楽章  
ヤコフ・クライツベルク指揮ボーンマス交響楽団  
(1999.3.15 ウィーン・ムジークフェラインザールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

ヨハネス・ブラームス (1833~1897):  
ヴァイオリン・ソナタ第1番ト長調 op.78 “雨の歌” ~ 第1楽章、第3楽章  
ジャン=ジャック・カントロフ (ヴァイオリン)/ ジャック・ルヴィエ (ピアノ)  
(1997 名古屋・白河ホールでのLive)

ベーラ・バルトーク (1881~1945):  
ルーマニア民俗舞曲 Sz.56  
ジャン=ジャック・カントロフ (ヴァイオリン)/ ジャック・ルヴィエ (ピアノ)  
(1985.10.1 東京文化会館小ホールでのLive)

ヘクトル・ベルリオーズ (1803~1869):  
幻想交響曲 op.14 ~ 第1楽章から、第2楽章、第4楽章、第5楽章  
ピエール・デルヴォー指揮フランス国立管弦楽団  
(1991.3.14 パリ、シャトレ座でのLive)